

## 富山県中山間地域創生総合戦略検討会 議事概要

### ○日時

令和8年2月20日（金）15:30～16:30

### ○会場

富山県防災危機管理センター2階中会議室、オンライン

### ○議事

(1) 第2期富山県中山間地域創生総合戦略（案）について

#### 【議事概要】

（島田委員）

これまで何度も議論を重ねてきて、内容がきめ細かく書き込まれている、事業としても幅広く地域を拾える形になっているという印象を持っている。

ここ数年、県の様々な事業にも参加させていただくなかで、中山間地域の人材が非常に分厚くなってきたと感じる。今まで知らなかった人がどんどん出てきているし、特に女性で「中山間地域で頑張りたい」という人が増えている。こういう方をどのような施策で応援していただけるかということが重要である。書いて終わりではなく、実行に移していただきたい。期待している。

（品川委員）

モビリティの観点からコメントさせていただく。デマンド交通や自治体ライドシェアは、積極的に導入していくべきだと思う。その意見に対して、戦略の中でも新しいモビリティサービスの立ち上げ支援や、持続可能な地域交通の確保に取り組む方向性が盛り込まれた。また、将来的に自動運転やドローン物流、生活支援ロボットといったことも盛り込まれているので、中山間地域の活性化についても、そういう視点を持って進めてほしい。民間事業者として社会実装に向けて尽力したい。

また、地域づくりについても、自治力が高い、あるいは高めようとしている地域を優先的に支援して、中山間地域活性化のモデルを作って展開していくことが今後、求められるのではないかと。

全体としてこれまでの様々な意見を網羅したバランスの良い総合的な視点での戦略になっていると評価している。さらに、県の総合計画が掲げる人口減少の緩和を図ると同時に人口減少に適応した地域づくり、緩和と適応の両面の視点がこの戦略に共有されている点も評価する。

（若林委員）

生活協同組合連合会として本戦略を推進する立場から、まず、買い物支援について話する。生協では現在、宅配や夕食弁当の配達を行っており、特に中山間地域やスーパーがない地域で利用が多い。今後も、こうしたサービスについてさらに推進していきたい。

また、生協は医療・福祉事業も展開している。現状、福祉事業所は富山市、高岡市、黒部市に限られているが、組合員が地域で暮らし続けられるように、スーパー的な機能や福祉事業も含めた“くらしのトータルケア”の観点で事業を展開していきたいと考えている。

福祉面では、訪問デイサービスに行く途中で買い物支援も行うとか、通院同行に取り組むなど新たな支援にもチャレンジすることが必要だと思う。さらに、電球交換や除雪みたいな小さな困りごとを支える地域の助け合い活動もあるが、担い手の高齢化で広がりにくくなっている。他県では社協やJAなどと連携し、仕組みを一本化する動きもあるので、参考にしながら、困りごと支援も広げていく必要があると考えている。

加えて、農業分野にも挑戦しているが、営農組織も高齢化により継続が難しくなっている。生協として農業にも取り組み、地域の組織と連携しながら生産を継続し、そこで栽培した農産物を組合員に届ける取組にもチャレンジしていく必要があると考えている。

(金子委員)

本検討会では各委員が活発に意見を出されるので、事務局は大変だったと思うが、その意見が全てと言っていいほど吸収され、充実した内容の戦略になったと感じる。これからの課題は、これをどう実現していくかである。部局をまたぐ施策が多いので、庁内の連携を円滑に進める仕組みづくりが特に重要になる。

あわせて、中山間地域に暮らす人が希望を持てるかどうか、暮らしのイメージや“空気づくり”が土台になる。県がどんなに頑張っても、地域に前向きな空気が生まれなければ持続性は高まっていかないと思う。県が中山間地域の情報を発信している「なかやまさん情報局」は明るく柔らかい雰囲気でもとても良いので、発信の仕方を磨いて地域の空気を変えていく後押しにしてほしい。

(佐藤委員)

追記してほしい点はいくつかある。まず、29 ページに「なかやまさん情報局」のQRコードがあるが、Instagramは、2016年に入ってからQRコード読み取る際に不具合が発生したことがあり、現在は解消されているようだが、今後も起こり得る。そのため、QRコードの下にアカウント名を記載したほうがよい。あわせて、フォロワーを増やす工夫として、県採用の地域おこし協力隊員に入ってもらうなど、より多くの方に情報が届く取組の検討が必要ではないか。

次に、45 ページ「③空き家の利活用の推進」に追記する形で、「空き家取得後、移住者が地域にスムーズに溶け込めるよう、あいさつ回りや地域活動への参加を促す取組などを通じて地域との関わりが円滑に進むように支援します」という文言を入れていただけると嬉しい。空き家の取得・売却がゴールではなく、移住者が地域で暮らし始める「最初の一步」を支えることが重要である。

最後は、51 ページ「4 地域の特性を生かしたビジネスの振興」の現状と課題にある低炭素エネルギーの導入に関する記載についてである。近年、メガソーラーの導入には反対意見も多く、補助金の見直しの流れもあるため、今後もメガソーラーを増やすと受け取られない表

現が望ましい。例えば「景観や自然環境を損なわない形で」といった文言を加えるなど、時代に合った書きぶりに修正してほしい。

(宮田委員)

全体として内容がよく網羅されており、良い形にまとまっていると思う。特に進捗管理について、評価を踏まえ、社会情勢の変化に合わせて見直していく方針が明記されている点が重要である。大きな計画ほど、現状がそのまま目標になってしまい、刻々と変わっている社会情勢に追いつけなくなることがあるため、評価して変える姿勢があるのは望ましい。

あわせて、地域側の意識を前向きに変えていくことも欠かせない。例えば、同じ「若者が移住する」でも、歓迎する地域がある一方で、付き合いのが大変だと受入れを負担に感じる地域もある。成功事例の共有や地域間の情報交換が進めば意識の変化につながると思うので、こうした取組を継続的に進めてほしい。

(宅見委員)

戦略の内容については、多様な意見やアイデアが盛り込まれており、素晴らしいものに仕上がったと思う。

一方で、県のホームページにある「中山間地チャレンジ支援事業」のような名称は堅くて、暗い印象になりやすい。地区ごとに愛称を付けてブランディングする取組があるように、県のホームページなどでの情報発信でも、「中山間地域」という言葉が持つ「条件不利地域」というイメージを和らげる工夫、例えば「愛称」を用いるなど、もう少し明るい言い換えや工夫があると良い。事実を正確に伝えることは大切だが、都市部の暮らしも中山間地域の自然資源に支えられているという相互関係を、前向きに表現で示せると、より共感と理解が広がるのではないかと。

(西村座長)

いくつか追加提案があったが、会議としては今回が最終回になるので、今後の文言修正などは座長一任として進めたい。

富山県は中山間地域の振興条例を制定し、継続的に取り組む体制を整えており、ここまで取り組んでいる県は多くないと思う。せっかく様々な施策を行っているので、それが県民にきちんと届くよう発信を工夫し、県が前向きな取組を応援していること、予算も伴って動いていることが伝われば、地域の希望につながる。ただし、県の施策を県民一人一人に届けるのは簡単ではない。今後もさまざまな工夫を重ねてほしい。

以上を踏まえ、戦略の全体の方向性については概ね本案のとおりでよろしいか。

<各委員、了承>

(事務局)

本日は貴重な意見・提案をいただき、ありがとうございました。本戦略の方向性について

はご承認をいただいたので、今後は座長とも相談しながら、総合戦略の策定作業を進めてまいる。全4回の検討会を通じて、座長をはじめ委員の皆様には熱心にご議論いただいたことに心より感謝申し上げます。県としては、中山間地域で持続可能な地域社会をつくるため、引き続き県庁一丸となって施策を実行してまいりたい。委員の皆さまには、引き続きそれぞれのお立場からご協力を賜りますようお願いしたい。本当にどうもありがとうございました。